

令和6年度 駒澤大学大学院法曹養成研究科教育課程連携協議会 報告書

1. 日 時:令和7年3月 10 日(月) 14 時 00 分～14 時 45 分

2. 場 所:Google Meet

3. 出席者:

(委員)上杉雅央、土居俊平、海永修司、森脇亜美、若林茂雄

(幹事)菊原武史

4. 議 題:

(1)本協議会の目的・活動方針・構成員について

(2)法科大学院の現状について

① 募集停止からこれまでの状況

② 学生数及び進級・判定について

③ 司法試験受験状況について

5. 議事概要:

(1)報告事項

① 学生数及び進級・判定について

上杉議長より、現在の在籍学生数(計 18 名)および進級判定の結果について
以下の通り報告がなされた。

・3年次生:11 名全員が修了。

・2年次生:5名中、進級4名、休学原級1名(次年度復学予定)。

・1年次生:2名中、進級1名、原級1名。原級者は在学期間の規定により退学となる可能性が高く、次年度の1年次生は0名となる見込みである。

② 司法試験受験状況について

上杉議長より、令和6年司法試験の結果について報告がなされた。

- ・受験者 32 名中、最終合格者は2名(短答合格 15 名)。
- ・内訳は、未修コース3年次の在学中受験合格者1名(本学出身)と、既修コース修了1年目の卒業生1名であった。

(2) 主な質疑応答・意見交換

報告を受け、合格者の分析および今後の指導方針について以下の質疑応答が行われた。

① 合格者の学習姿勢と波及効果

- ・委員より、今回の合格者から得られた知見や、今後の指導に活かせる点について質問があった。
- ・議長より、今回の合格者は1年次から強い覚悟を持ち、学内の談話スペース(周囲から見える環境)で一日中学習していた事例が紹介された。その姿勢(有言実行)が周囲の学生にも良い影響を与えていたとの説明がなされた。

② 法曹としての資質向上に向けた取り組み

- ・委員より、試験対策だけでなく、法曹に必要な資質(リーガルマインド)をどう育んでいるかについて質問があった。
- ・議長より、実務系科目の開講に加え、リーガルクリニック、エクスタークションシップ、法律相談補助などの実務経験の機会を提供し、教育に力を入れている旨の回答があった。

③ 今後の指導体制について

- ・議長より、学生数の減少に伴い教員の業務負担が軽減される分、そのリソースを司法研修員(修了生)や在学生への一層の学習指導充実に充てていこうとの方針が示された。

以上